

川崎市地球温暖化対策推進計画

年次報告書

2012



川崎市

平成 25 年 12 月 発行 / 川崎市 編集 / 環境局地球環境推進室

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町 1 番地 電話 : 044-200-2405 FAX : 044-200-3921

URL : <http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-4-7-4-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

計画の構成

2009年12月、地球温暖化対策のルールとして「川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例」を制定し、2010年度には、条例に基づき、川崎市の地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進するため、「川崎市地球温暖化対策推進計画（CCかわさき推進プラン）」を策定しました。

計画は基本計画と実施計画の2部構成で、基本計画は、事業活動や市民生活における温室効果ガス排出量の削減など市域の地球温暖化対策全てを対象とし、計画期間や目標、施策の基本的方向を定め、実施計画では、地球温暖化対策の推進のために実施する措置（市の事務事業等の取組）を定めています。

基本計画と実施計画を一体的に運用することで、総合的かつ計画的に地球温暖化対策を推進します。



地球温暖化対策推進基本計画

地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進するため策定する。次の事項等で定める

- ① 計画期間
- ② 地球温暖化対策の目標
- ③ 施策の基本的方向に係る事項

地球温暖化対策推進実施計画

基本計画に基づき、地球温暖化対策の推進のために実施する措置（事務事業）を定める
措置（事務事業）の特性に応じて、活動量などの定量的・定性的な目標を定める

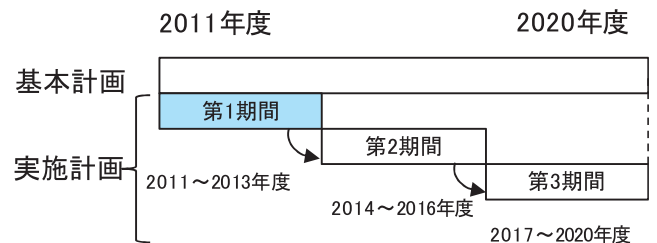
施策体系別措置：地球温暖化対策のために実施する措置（事務事業）を体系的に定める

重点プロジェクト：施策体系別計画のうち重点的に実施する措置（事務事業）を定める

計画の期間

基本計画の計画期間は2011年度から2020年度までのおおむね10年間です。

実施計画の計画期間については、おおむね3年間（第1期間：2011～2013年度、第2期間：2014～2016年度、第3期間：2017～2020年度）です。

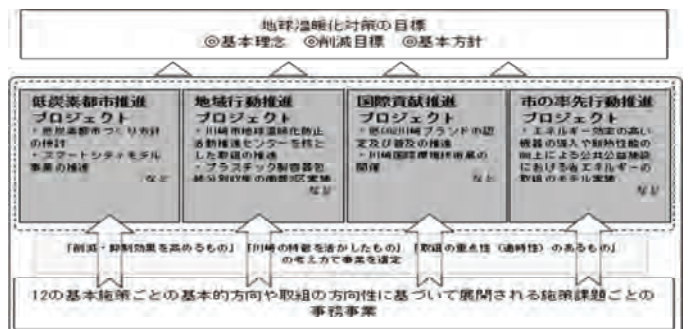


基本計画の施策体系と実施計画の重点プロジェクト

10年間の基本計画では、次のページのとおり削減目標及び6つの基本方針に沿って12の基本施策を掲げています。また、3年間の実施計画では、市の事務事業を位置付け、特に重点的に取り組むことによって、大きな施策効果の達成や課題の解決を目指していくとともに、事業者や市民を先導していくような事務事業を選定し、重点プロジェクトとして推進しています。

実施計画の第1期間では、次の4つの重点プロジェクトを推進しています。

- ① 低炭素都市推進プロジェクト
- ② 地域行動推進プロジェクト
- ③ 国際貢献推進プロジェクト
- ④ 市の率先行動推進プロジェクト



基本理念

環境と経済の調和と好循環を基調とした持続可能な低炭素社会を構築し、良好な環境を将来の世代に引き継ぐ

削減目標

- ・市域における温室効果ガス排出量の削減に取り組むとともに、本市の特徴である優れた環境技術を活かし地球全体での温室効果ガス排出量の削減に貢献することで、2020年度までに1990年度における市域の温室効果ガス排出量の25%以上に相当する量の削減を目指す。
- ・各主体が削減目標に向かって、自らの温室効果ガス排出量の削減を図るとともに、協働の取組を進めることで、温室効果ガス排出量を削減する。
- ・国全体の中期目標に関する検討状況等を見極めながら、必要に応じて目標の改定について検討を行う。

基本方針

- ①効果的に温室効果ガス排出量の削減が誘導される社会・経済システムを構築する
- ②再生可能エネルギー源、未利用エネルギーなど、地域に存在するエネルギー資源を有効かつ効率的に利用する
- ③事業者、市民、市がそれぞれの役割に応じて削減する
- ④協働の取組を推進する
- ⑤地球全体での温室効果ガス排出量の削減に貢献する
- ⑥ヒートアイランド対策に資する

基本施策

I 事業活動における温室効果ガス排出量の削減の推進

- | | |
|-------|---|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業活動に係るエネルギーの効率的な利用を促す。 ・二酸化炭素とともに、他の温室効果ガス排出量の削減を促す。など |
|-------|---|

II 市民生活における温室効果ガス排出量の削減の推進

- | | |
|-------|---|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス排出量の「見える化」を進め、取組の効果が実感できる仕組みを構築する。 ・環境配慮型ライフスタイルを選択できる仕組みを構築する。など |
|-------|---|

III 再生可能エネルギー源等の利用

- | | |
|-------|---|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・太陽エネルギー（太陽光・熱）利用量を2020年度までに30倍にする。（2005年度比） など |
|-------|---|

IV 低炭素都市づくりの推進

- | | |
|-------|--|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・低炭素都市づくりを誘導する。 ・面的な利用など、地区単位でエネルギーの有効利用を促す。 など |
|-------|--|

V 循環型社会の形成の推進

- | | |
|-------|---|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度の廃棄物分野における温室効果ガス排出量を35%削減する。（2007年度比） など |
|-------|---|

VI 交通における地球温暖化対策の推進

- | | |
|-------|---|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境や人にやさしい交通ネットワークを構築する。 ・公共交通機関に依拠した交通ネットワークを構築する。 など |
|-------|---|

VII 地球環境に係る環境教育・環境学習の推進

- | | |
|-------|---|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業者、市民に、地球環境に配慮した考え方や行動の定着を促す。 ・環境学習活動等を率先して行う人材を育成する。 など |
|-------|---|

VIII 緑の保全及び緑化の推進

- | | |
|-------|--|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度までに行政が主体的に取り組む緑のインフラの保全と創出として約1,820haを目指す。 など |
|-------|--|

IX ヒートアイランド対策の推進

- | | |
|-------|--|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヒートアイランド現象を緩和し、市民の快適な生活の確保を目指す。 |
|-------|--|

X 環境技術による国際貢献の推進

- | | |
|-------|---|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な環境活動や環境技術の移転を通じ、地球全体での温室効果ガス削減に貢献する。 |
|-------|---|

XI 環境技術の研究開発等の推進

- | | |
|-------|---|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・川崎のフィールドを活かした環境技術研究開発を推進する。 ・体系的な環境技術情報を発信する。 |
|-------|---|

XII 市役所の率先取組の推進

- | | |
|-------|--|
| 基本的方向 | <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度までに市の事業活動に伴う温室効果ガス排出量を2割以上削減する。（2008年度比） など |
|-------|--|

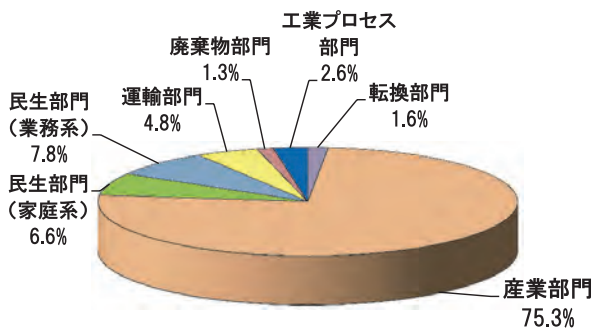
2 川崎市における温暖化の現状

2010年度（暫定値）の温室効果ガス排出量は、2,431万トン-CO₂であり、基準年度（1990年度）の排出量（2,922万トン-CO₂）と比較して、16.8%の削減となっています。

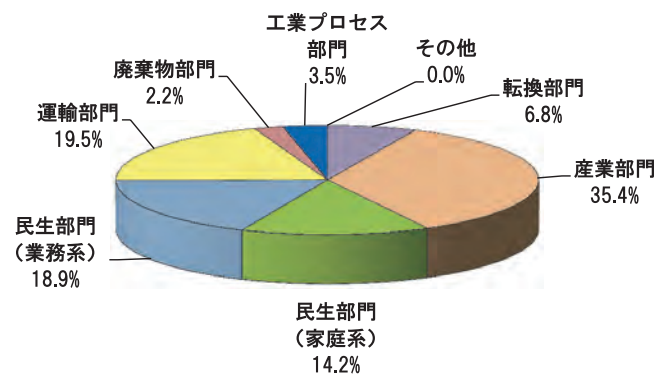


2010年度（暫定値）の二酸化炭素排出量の部門別構成比を見ると、産業部門が最も高くなっており、全国平均と比べても、非常に大きいことがわかります。

市内の二酸化炭素排出量の部門別構成比（2010年度暫定値）

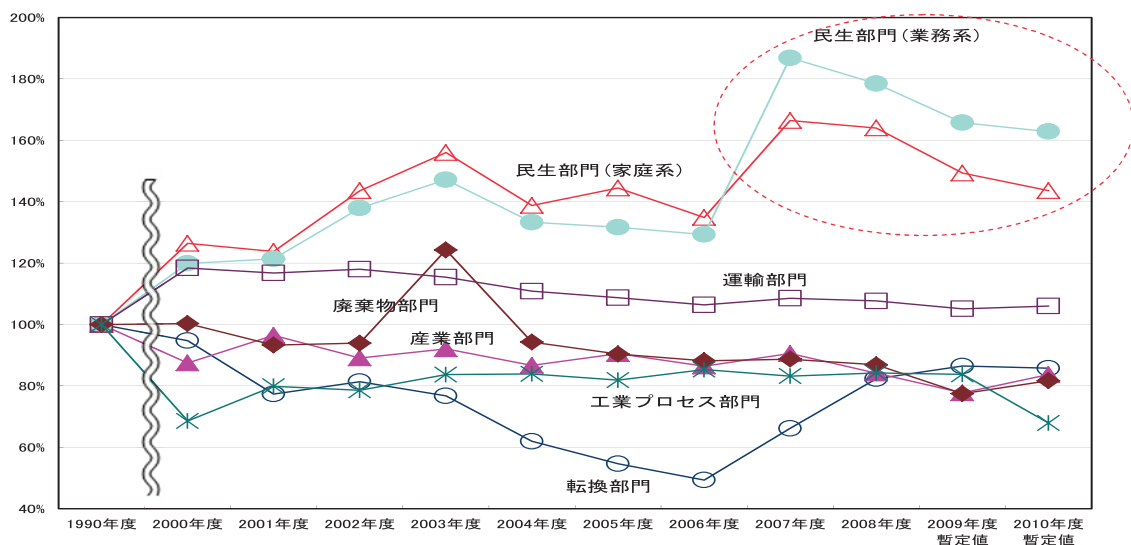


全国の二酸化炭素排出量の部門別構成比（2010年度）



部門別の排出量を見ると、基準年度（1990年度）と比べ転換部門、産業部門、廃棄物部門、工業プロセス部門では削減していますが、民生部門（家庭系）、民生部門（業務系）、運輸部門では増加しています。

部門別の二酸化炭素排出量の推移（1990年度=100%）



<http://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000013861.html>

(1) 低炭素都市推進プロジェクト

本市の二酸化炭素排出量のうち、都市における社会経済活動に起因することが大きい民生部門（家庭系）やオフィス・商業系の民生部門（業務系）、自動車等の運輸部門における二酸化炭素排出量は基準年に比べて増加傾向にあります。誰もが暮らしやすい持続可能なまちづくりを進めていくことが重要であることから、中長期的な視点に立ち、関連施策と連携しながら、「コンパクト化」や「エコ化」などに配慮したまちづくりを進めていく必要があります。

2012年度では再生可能エネルギー導入の推進やスマートシティ構想の推進などに取り組みました。

再生可能エネルギー導入の推進

基本施策

Ⅲ、Ⅺ

再生可能エネルギーの導入促進に向けて、住宅用太陽光発電設備設置補助 1,072 件、住宅用太陽熱利用設備設置補助 16 件を行いました。

公共施設の率先導入として、かわさき新産業創造センターや小学校に太陽光発電設備が設置され、2012年度末現在で太陽光発電設備が70施設に821kW、マイクロ風力発電が1施設に12kW、小水力発電が3施設に267kWの導入を確認しました。



太陽光パネル

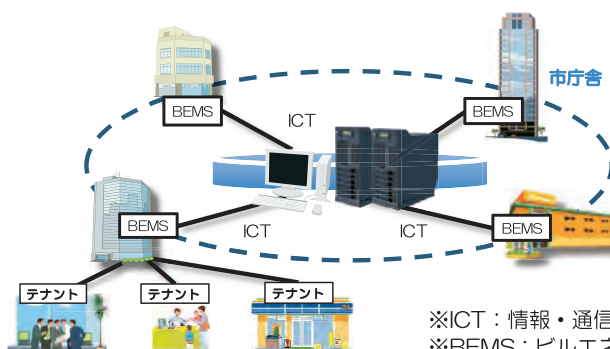
スマートシティ構想の推進

基本施策

Ⅲ

低炭素社会の実現と市民の利便性・快適性の向上や安全・安心の確保などを目指し、環境先進都市である川崎の特徴や強みを活かしながら、エネルギーマネジメントなどを実現するスマートシティを構築するため、基本的な考え方をスマートシティ構想（素案）及びモデル事業等の取組の方向性に反映しました。また、各モデル事業（川崎駅周辺地区・富士見周辺地区実施）の実施に向けて、取組の方向性の検討・取りまとめを行うとともに、新たなモデル事業として、臨海部地域や小杉駅周辺地区における取組について検討しました。

川崎駅周辺地区スマートコミュニティ実証事業 実施イメージ



地域主体のエネルギーマネジメントなどをテーマに、持続可能なビジネスモデルの構築に向けた実証事業を平成25年度から実施することとなった。

※ICT：情報・通信関連技術。
 ※BEMS：ビルエネルギーマネジメントシステム

(2) 地域行動推進プロジェクト

温室効果ガスはあらゆる主体から排出されるものであることから、各主体がそれぞれの役割に応じて削減するとともに、多様な主体の協働により地域での取組を進めていくことで、市民生活におけるエネルギー使用量の削減などを促していく必要があります。

2012年度では、CO₂削減・地球温暖化対策の推進に向けた新たな取組としてスマートライフスタイル大賞制度を創設するなど協働の取組を推進するとともに、エコ暮らし未来館を活用した情報発信などに取り組みました。

協働による地球温暖化対策の推進

基本施策

Ⅱ、Ⅶ

多様な主体の協働による取組について、CC川崎エコ会議を通じた情報発信として、CCかわさきホームページやメールマガジンの配信とともに、シンポジウムの開催や川崎国際環境技術展における展示・会場内ツアーを実施しました。また、地域に密着した温暖化対策の推進リーダーとして、川崎市地球温暖化防止活動推進員第2期77名を委嘱するとともに、高津市民館内の情報発信拠点「CCかわさき交流コーナー」で毎月のテーマを定めたパネル展示やミニ講座の実施等の情報発信に取り組んだほか、市立学校や町内会等での出前講座の開催やイベントへの出展等により温暖化対策の普及啓発を進めました。

また、CCかわさき“エコ暮らし”の普及に向けて、6月には川崎フロンターレ等と協力し、「CC等々カエコ暮らしこフェア」を開催するなど、地球温暖化対策を呼び掛けるイベントを開催しました。



地球温暖化防止活動推進員活動



CCかわさき交流コーナーテーマ展示



第2回CC等々カエコ暮らしこフェア

スマートライフスタイル大賞制度の創設

基本施策

Ⅱ、Ⅶ

市民や市内事業者の節電・省エネなどの環境配慮行動を実践する生活や事業活動の中での優れた取組を募集し、表彰するとともに、これを広く発信していくことでCO₂削減、地球温暖化対策を推進することを目的とした表彰制度「スマートライフスタイル大賞」を創設しました。

第1回スマートライフスタイル大賞では、株式会社川崎フロンターレ「Jリーグクラブとしての地域における地球環境保全へ向けた取組」・省エネグループ「地球温暖化対策及び省エネルギーの普及・啓発活動」の2件を大賞としたほか、優秀賞4件・奨励賞9件を表彰しました。

受賞した取組については、CC川崎エコ会議シンポジウムにおいて表彰式を行うとともに、市ホームページや報道発表など様々な媒体を活用して情報発信を行いました。



第1回スマートライフスタイル表彰式



エコ暮らし未来館を活用した情報発信

基本施策

Ⅲ、Ⅶ

かわさきエコ暮らし未来館には開館以来約35,000人の来館者を迎え、市内の再生可能エネルギー等関連施設を有機的に連携させ、最先端の環境エネルギー技術のショーケースとして広く情報発信を行う「CCかわさきエネルギーパーク」の中心的な啓発施設として環境教育・環境学習を推進しています。大規模太陽光発電所の見学ツアー、エコを学ぶ講座なども行っており、再生可能エネルギーや地球温暖化防止に向けた取組を体験しながら学ぶ事が出来ます。

 <http://eco-miraikan.jp/>

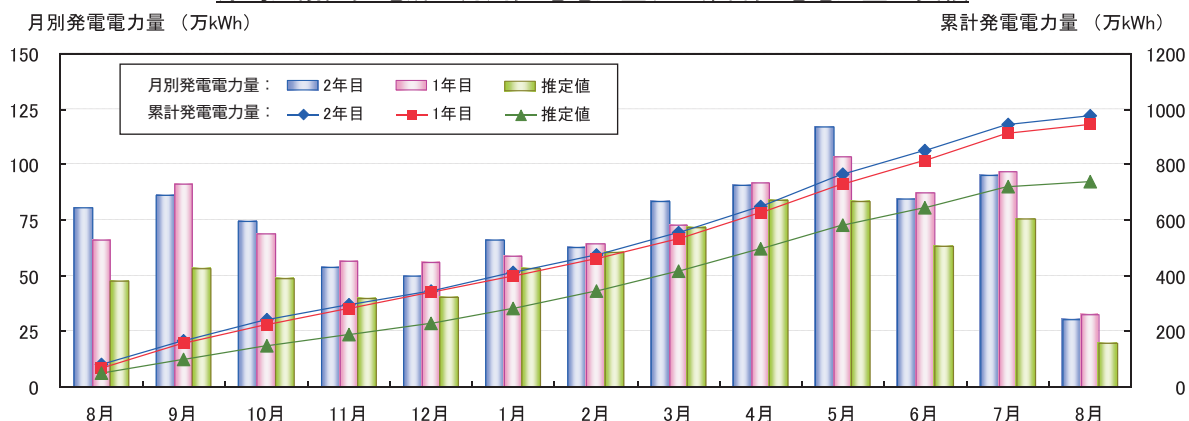


かわさきエコ暮らし未来館



隣接する浮島太陽光発電所

浮島太陽光発電所の月別発電電力量及び累計発電電力量の実績



(3) 国際貢献推進プロジェクト

世界的な課題となっている地球温暖化の問題を解決していくには、地球全体で考え、地域で出来ることから対応を進めていくことが重要になります。川崎市は環境分野においては先進自治体であり、公害克服に向けた過程で培った経験やノウハウ、温暖化対策に向けた最先端の環境技術が蓄積されており、これらの海外移転を促進し、地球全体の環境問題の解決に取り組んでいく必要があります。

2012年度は、国内自治体初の取組である川崎メカニズムを構築するとともに、川崎市環境総合研究所の開設などに取り組みました。

川崎メカニズムの構築

基本施策

I、X

市内事業者の優れた環境技術による原料調達から廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体を考慮した「域外で温室効果ガス削減に貢献する量（域外貢献量）」を算定するためのガイドラインを「域外貢献量算定ガイドライン」として2012年5月に策定しました。

また、そのガイドラインをもとに、市が事業者の域外貢献量を認証し、域外貢献量を市内事業者の温室効果ガスの直接排出量とともに評価する「川崎メカニズム」を国内自治体初の取組として構築しました。

「川崎メカニズム」は、優れた環境技術を有する事業者による温室効果ガスの削減貢献を市場で適切に評価していくものであり、製造業や研究開発拠点の集積する川崎市ならではの新しい取組です。2013年度から「川崎メカニズム認証制度」として運用を開始し、市内事業者の環境関連技術の開発や普及を後押しすることで、海外への環境技術の移転やグリーンイノベーションの促進、さらには、国際競争力の向上を図ることにより、地球規模の地球温暖化対策に貢献していくことを目指しています。



低CO₂川崎ブランドの本格実施

基本施策

I、X

低炭素社会の構築につながるものづくり等を応援するため、ライフサイクル全体でCO₂削減に貢献している製品・技術等を評価する「低CO₂川崎ブランド」を2009年度から試行的に実施し、2012年度から本格実施しました。2012年度は、10件の製品・技術等を「低CO₂川崎ブランド」として認定するとともに、富士電機株式会社の「単機最大容量地熱タービン・タービン発電機」を「低CO₂川崎ブランド大賞」として選定しました。



低CO₂川崎ブランド'12 認定結果発表会

また、川崎国際環境技術展における認定結果発表会のほか、エコプロダクツ展などでの出展やホームページ等での広報などにより、認定製品・技術等の紹介や低CO₂川崎ブランド事業の取組の紹介など情報発信を行いました。



<http://www.k-co2brand.com/>

川崎国際環境技術展の開催

基本施策

X

川崎の最先端の環境技術やノウハウを広く国内外に情報発信するとともに、国際的なビジネスマッチングの場を通して普及を促進し、世界の様々な環境対策に貢献することによる環境分野での産業の活性化を目指し、「川崎国際環境技術展 2013」を開催し、145 団体、242 ブースの出展と、海外参加者を含め 15,200 名の来場がありました。

また、過去に川崎国際環境技術展に出展した企業に対するアンケート等をもとに、企業の海外展開に向けたヒアリング（7 社）を行い、専門コーディネーターによるマッチングフォローアップを実施するとともに、今年度の技術展当日にも専門家を配置し、アドバイス、コーディネート等による事業者支援を実施しました。



川崎国際環境技術展 2013

環境技術を活かした国際貢献

基本施策

X

UNEPと連携し、先進的な環境技術・戦略の情報交換の場として「第9回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」を開催し、瀋陽市(中国)、バンドン市(インドネシア)、ペナン市(マレーシア)等のアジア諸国や環境省、国立環境研究所等の関係機関等から延べ 254 人が参加しました。

「エコタウン」をテーマの一つとして、先進的な環境都市の形成や環境産業の振興、参加各都市の環境の取組及び環境教育の取組等について情報共有を図り、川崎発の環境・エネルギー産業が牽引するグリーン・イノベーション(環境と経済の両立による成長の原動力となる取組)の推進を、国内外に発信することができました。



第9回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム

川崎市環境総合研究所の開設

基本施策

XI

川崎市環境総合研究所が、2013年2月1日に、川崎区殿町3丁目の国際戦略拠点「キングスカイフロント」の中核施設、川崎生命科学・環境研究センター「L i S E」(ライズ)内に開設しました。

環境総合研究所は、従来の公害研究所、公害監視センター、環境技術情報センターの機能を再編・統合し、発足したものです。

地域の環境改善と環境汚染防止のための監視・調査・研究に加えて、川崎の優れた環境技術による国際貢献の推進や、環境技術情報の収集と発信などを行うほか、都市と産業の共生を目指した研究に取り組むなど、外部研究機関や企業と幅広く連携しながら、環境に関する総合的な研究を推進しており、その一環として2012年度には6件の産学公民連携による共同研究事業を行いました。また、多様な主体と連携した環境教育・学習の実施などを通じて、広く市民の方々にも参画をしていただくことも計画しています。



川崎市環境総合研究所

(4) 市の率先行動推進プロジェクト

市役所は、民生部門（業務系）では市内最大規模の排出事業者となっており、市民や事業者に率先して、省エネルギーなどの地球温暖化対策に取り組んでいく必要があります。特に、市の公共施設については、多くの人が集い、市の環境配慮の取組のアピール度が高く、効果的な普及広報が期待できることから、積極的に地球温暖化対策を進める必要があります。

2012年度では、電力需給対策への対応をはじめとして、市役所の率先した取組を行いました。

電力需給対策の着実な実施

新たな取組

電力需給バランスの確保に寄与するとともに、エネルギー利用の合理化を促進し地球温暖化対策に繋げていくことを目指し、「平成24年度川崎市電力需給対策基本方針」を策定し、節電対策をとりまとめたリーフレットなどによる普及啓発や、住宅用太陽光発電設備の設置補助、中小規模事業者に対する省エネルギー診断の実施やエコ化の支援などを通じて、市民・事業者と一体になった取組を推進しました。

市役所の率先した取組として、市民生活に大きな影響が生じない施設の総電気使用量を2010年度比で概ね15%以上削減することを目標に、市有施設への再生可能エネルギーの導入拡大や、LEDなどの高効率照明の導入などを行いました。また、電力需給のひっ迫が予想された夏期においては、平日9時～20時において2010年度の使用最大電力の15%以上の削減を目標にした「夏期における市役所率先取組の推進について」を策定するとともに、環境局サマertimeモデル事業を実施するなど、取組を推進しました。

市役所では、率先した取組の結果、年間の平均で、庁舎等で16.2%、区役所等で20.0%の電気使用量を削減するとともに、7月から9月の平均で、大口施設（契約電力500kW以上）でピーク電力を23.5%削減、小口施設（契約電力500kW未満）で電気使用量を18.3%削減しました。



市役所の率先取組の推進

基本施策

XII

市での環境に配慮した設備導入を積極的に推進するため、「市建築物における環境配慮標準」の策定に向けて検討を行うとともに、高効率照明の導入可能性調査や空調のモデル事業の効果検証を行いました。また、庁舎照明のLED化に向けて、2011年度から2012年度において白熱電球約15,100個をLED化しました。

「川崎市環境配慮契約推進方針」や「川崎市グリーン購入推進方針」に基づき、環境配慮製品・サービス等の購入等に取り組みました。また、環境配慮電力入札について、入札実施の早期化、施設のグルーピング化など、「環境に配慮した電力調達の当面の対応について」をとりまとめるなどし、効果的な電力調達の実施に取り組みました。

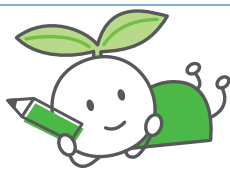
本庁舎等やイベントで使用する電力について、合計506,150kWhのグリーン電力証書（太陽光）によるカーボンオフセットを行いました。



グリーン電力証書

4 2012年度の取組経過

4月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「平成24年度川崎市電力需給対策基本方針」の取組がスタート 電力需給のバランスに寄与するとともに、エネルギーの合理化を促進し地球温暖化対策に繋げることを目指して、取組がスタート ◎ 第2期川崎市地球温暖化防止活動推進員委嘱式の開催 地域に密着した温暖化対策の推進リーダーとして第2期77名を委嘱 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 九都県市再生可能エネルギー活用セミナーの開催 太陽光や太陽熱といった再生可能エネルギーの普及啓発を目的としたセミナーを開催 ◎ 環境産業フォーラム開催 テーマ：デンマークのスマートグリッド ◎ かわさき環境ショーウィンドウ大賞2012の選定 大賞1件、入賞6件を選定
5月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 九都県市「ライフスタイルの実践行動」キャンペーン 「つなげよう」「ひろげよう」省エネ・節電～地球の未来のために～をテーマに、各都県市の率先取組やイベント等を通じて市民・事業者への啓発などを実施（2012年5月～2013年4月まで） ◎ 域外貢献量算定ガイドラインの策定 川崎市内の事業者による製品の製造や研究開発等による川崎市域外の温室効果ガスの削減の貢献量を定量化する方法をガイドラインとして策定 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 瀋陽市からの環境技術研修生来川 友好都市中国瀋陽市からの環境技術研修生2名を1か月受入れ ◎ CC川崎エコ会議シンポジウム・第1回スマートライフスタイル大賞表彰式の開催 大賞2件、優秀賞4件、奨励賞9件を表彰
6月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ CC等タカエコ暮らしフェアの開催 川崎フロンターレ等と共同して、CCかわさき”エコ暮らし”キャンペーンとして低炭素・資源循環・自然共生の3つの環境配慮行動を呼びかける環境イベントを開催 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ エコプロダクツ展に「低CO₂川崎ブランド」出展 日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2012」にブース出展し、事業やこれまでの認定製品等をPR ◎ 扇島太陽光発電所運転開始1周年 12月19日に運転開始1周年を迎え、発電電力量は当初想定との1.1倍となる約1,510万kWh
7月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「平成24年度川崎市電力需給対策基本方針 夏期における市役所率先取組の推進について」の取組がスタート 平日9時～20時の使用最大電力を15%以上削減(2010年度比)することを目標とした市役所の率先した取組を実施(7月～9月) ◎ 環境局サマータイムモデル事業を実施 電力需給対策及び地球温暖化対策とともに、職員の健康保持や効率的な事務執行の観点から、環境局本庁職場において終業時間(17:15)以降の残業を原則禁止にするモデル事業を実施(7月～8月) ◎ かわさきエコ暮らし未来館開館1周年記念「環境教室」の開催 8月6日に開館1周年を迎えたかわさきエコ暮らし未来館で、メガソーラーの見学や工作教室など、環境について楽しく学べる環境教室を開催(7月・8月で計3回) 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 低CO₂川崎ブランド'12認定 製品・技術部門7件、サービス部門3件を認定 ◎ 「エコちゃんず」が地域での活動を開始 「エコちゃんず」がイベントなど身近な地域での活動を行っていくことを発表 ◎ 第9回アジア太平洋エコビジネスフォーラム開催 先進的な環境技術・戦略の情報交換の場としてUNEPとの連携により開催
8月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 産学公民連携公募型共同研究事業 kickoff セミナー開催 2012年度に実施する共同研究事業(川崎市の地域特性を活かしたスマートシティモデル事業検討など6件)を紹介 ◎ 浮島太陽光発電所運転開始1周年 8月10日に運転開始1周年を迎え、発電電力量は当初想定との1.3倍となる約945万kWh ◎ 一般廃棄物処理基本計画行動計画の改定 3処理センター体制への移行など4つの最重要施策を位置付けた2013～2015年度までの行動計画 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 環境総合研究所の開設 環境分野における地域活性化と国際貢献の新たな拠点となることを目指した「川崎市環境総合研究所」を開設 ◎ 川崎国際環境技術展2013開催 2009年から5回目となるアジア地域を中心に優れた環境技術を移転し、環境技術による国際貢献と産業の活性化を目指す「川崎国際環境技術展2013」を開催。(来場者数15,200名)あわせて、低CO₂川崎ブランド'12認定結果発表会・かわさき環境ショーウィンドウ事業2012表彰式を開催 ◎ テクニカルショウヨコハマに「低CO₂川崎ブランド」出展 神奈川県最大の工業技術・製品見本市「テクニカルショウヨコハマ2013」にブース出展し、事業やこれまでの認定製品をPR
9月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ かわさき環境ショーウィンドウ・モデル事業2012の選定 見える化に優れたアイデア6件を選定 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 産学公民連携公募型共同研究事業成果報告会開催 2012年度の共同研究6事業の成果発表 ◎ かわさきコンパクトフォーラム開催 テーマ：グローバル化における企業の社会的責任 ◎ 「住宅のエコ」推進セミナーの開催 太陽光発電設備を中心に最新の動向や国の支援制度、市の取組等を紹介 ◎ 川崎メカニズムの構築 域外貢献量を認証し、市内事業者の温室効果ガスの直接排出量とともに評価する仕組み「川崎メカニズム」を全国自治体として初めて構築 ◎ 「キングスカイフロント」まちびらき 記念式典やイベントを実施





ろじいちゃん のみいちゃん
エコちゃんず